



## 教え合うクラス

- 3 地理 気候  
分かりやすい
- 4 英表 比較  
CMが憂鬱
- 5 日本史 藤原氏  
道長なつかしい
- 6 コミュ英 ボクシング  
わからない
- 7 古典 東下り  
予習してよかった

○朝からいろいろと疲れた。

\*

先週の日誌を読んでいると、すでに後期中間考査のサクシードの範囲が終わった人がいるみたいで立派である。しかも、その人は、杉T七Mさんの質問に「きちんと答えられるように」頑張っているというのだから、さらに立派である。

前に書いたが、勉強を互いに教え合えるクラスというのは、私の理想のクラスの一つである。というのも、1～2年生のうち、全員が同じように向上することが重要だからである。全員が同じレベルで向上していけば、それに併せて高度な授業が展開できるし、高度な授業が展開できる状態が年間を通して続くようであれば、基礎的なことに戻りながら授業を進めた場合と比べて、その成果に大きな差が出てくることは明かだろう。

日比谷は不得意な人を切り捨てたりはしない（だから、宿題もしっかり提出させる）。でも、それは逆にいえば（つまり、得意な人の側から言えば）、まだるっこしい授業を展開している印象につながるかも知れない。し

かし、最後まで諦めずに全員で頂上を目指すことが、結果として全員により結果をもたらすことが経験的に分かっているのである。トップクラスの人だけを率いて（遅れた人は放っておいて）、先に頂上を目指してガンガン進んだ方が効率が良いように見えるが、最終的にはそういう結果にならないのである。不思議である。

しかし、そこにこそ日比谷の特色があるような気がする。受験だけのことを考えるなら、自分のペースで、自分に一番あったやり方で勉強するのが最も効率的なはずである。だから、いわゆる高等学校卒業程度認定試験を受けた上で、大学入試にチャレンジしたっていいのである。

しかし、さまざまな個性が一つの空間に集まって、それぞれの良い面がたくさん発揮される場面が多くあると、知らず知らずのうちに影響しあい、互いが互いを高め合いながらどんどん知識や常識や良識が育っていくということがあるのである。この相互作用は、一人の空間では決して起こらない。そして、日比谷では、レベルの高い仲間が集まることによって、相互作用の空間の質も高まっているし、それによって身につく知識や常識・良識のレベルも高くなっているのである。

\*

ということで、ぜひこの教室という相互作用の空間を、知的で内実のあるものとしてほしい。後期は行事がないが、その分、13Rは「成績優秀なクラス」として知れ渡るようになってほしいものである。